



ABCレポート

A Be Connection ~あべと皆様を結ぶレポートです~

あべ俊昭 県政報告 2024年 No.50 記念号

発行者/千葉県議会議員 阿部俊昭



2024年も **現場第一主義** で、生活現場を回りながら、皆様の声を形にしていきます。

私たち公明党は、党綱領に「中道主義」を明記した唯一の政党です。「中道」とは、「生命・生活・生存を最大限に尊重する人間主義」のことです。人種や身体の特徴、感じ方や考え方、得手不得手など、これらが全て異なるからこそ、私たちは互いに助け合うことができ、繁栄することができる。つまり、我々の多様さは、この社会全体にとって不可欠なものであると考えます。ゆえに、様々な価値観や文化的背景を持って生きている一人一人に光を当て、誰もが“ありのまま”で暮らせる、多様性豊かな社会実現を実践しています。

(2023 あべの代表質問~多様性尊重の質問の祝詞から)



定例県議会 代表質問に立つ!

「大衆とともに」との立党精神を掲げて、県民の皆様と結びつき、前進する公明党を代表して、通告に従い質問いたします。始めに、知事の政治姿勢について伺います。県民第一として各地の県民・青少年の皆様、職員、首長、議員、企業団体からの声に耳を傾ける熊谷知事の姿に、未来への新しい千葉の風を感じております。

略……千葉県総合計画では県政運営を貫く3本の矢として

- ①千葉の総力を結集した県づくり
- ②デジタル技術の効果的活用
- ③県民の視点に立った行政組織への変革

を掲げて各施策に取り組んでいますが、具体的な成果や反応はいかがなものでしょうか。4年間の集大成にいかにつなげるかが問われます。残りの任期・令和6年度の事業内容・予算編成は重要と考えます。

そこで伺います、



- ① 知事の政治姿勢について
多様性尊重条例・芸術文化振興・SDGs など
- ② 新たな経済対策について
- ③ 自主財源の確保について
ネーミングライツ・広告収入の拡大へ工夫
- ④ ライドシェアの導入について
- ⑤ 防災対策について
- ⑥ 県民を守るための施策について
視覚障がい者支援 消費者相談
- ⑦ 若者をとりまく健康課題について
梅毒・エイズの実態と対策、オーバードーズ
- ⑧ 食品衛生法改正について
- ⑨ 県民活動の推進について
- ⑩ 千葉県環境研究センターについて
- ⑪ 手賀沼の水辺環境について
- ⑫ 県立都市公園について
- ⑬ 県立高校の環境の充実と整備について
- ⑭ 飲酒運転対策について

代表質問 就任後これまでの約1,000日間をどう総括し、残りの任期をどう取り組んでいくのか

知事答弁 令和3年4月の知事就任後、本県が目指す将来像を示し、その実現に向け、県民の皆様と共に取り組んでいくための道しるべとして、新たな総合計画を策定をし、県民の命とくらしを守るべく県政運営に取り組んできました。今後も、様々な人の意見に耳を傾けながら、全ての県民が安全、安心して健康に暮らし、個性と能力を十分に発揮できる千葉県を築いていく。

代表質問 経済対策 ~重点支援地方交付金~

デフレ完全脱却のための総合経済対策には、重点支援地方交付金として自治体交付が決定され……物価高騰の影響が顕著な事業、あるいは中長期的な観点から県民生活を守るため有意義に活用して頂きたい。重点支援地方交付金の活用方法はどのように決定しているのか。

副知事答弁 物価高騰が県民生活や県内経済に与えている影響などを踏まえるとともに、市町村による実施が想定される事業との重複にも配慮しながら、交付金を活用する事業を決定しているところです。

代表質問 プロパンガス世帯など、生活者支援を検討してほしいがどうか

総務部長答弁 国から示されている生活者支援の事例も参考にしながら、追加の物価高騰対策をいち早く実施できるよう検討する。



1週間後、補正発表 → **可決!**
プロパンガス利用世帯 **1200円支援 実現**

国実施のガス料金の激変緩和措置の対象と
ならないLPガス世帯を県が再びの独自支援へ!

Q、命名権(ネーミングライツ)の本格導入について、今後どのように進めていくのか?

A、県有施設へのネーミングライツの導入は、自主財源の確保による安定的な施設の運営や、民間の資源・ノウハウ等の活用による施設の魅力向上など様々な効果が期待。制度の導入に向け、試行として歩道橋におけるネーミングライツを実施しており、公募した11橋のうち7橋について、候補者と来年1月からの愛称使用に係る契約の手続きを進めています。この試行において把握した問題点や課題、成果などの検証結果について、ガイドラインに反映させるとともに、事業者へのニーズの調査を行うなど、制度の本格導入に向けさらに検討を進める。



歩道橋の桁面部分に愛称を表示できます

Q、県有施設における広告スペースの提供について、県の考えはどうか?

A、県民サービスの向上と地域経済活動の活性化を図るため、県有資産の本来の目的を妨げない限度において、民間企業等の広告掲出に取り組んでいる。県有資産における広告スペースの提供については、他自治体における取組事例なども参考にしながら、導入の方法等の検討に努めていく。

要望

命名権や広告は、お互いがWinWinの関係になるので行政の立場からだけではなく企業側からの場所や施設や金額等の要望提案を受けて検討していくことは重要と思います。栃木県の取組などを参考にしてほしいです。また、来庁者の方々を対象に行政情報や広告等を表示するためのデジタルサイネージ式情報案内板・電子広告を設置し、広告枠に民間企業等の広告主を募集する県が増えてきていますので、千葉県も検討に入ってほしい。



都市公園法が改正されたときに、年間利用者150万人の柏の葉公園への民間活力導入を訴えてきたのがあべです。

Q、県立都市公園における民間活力の導入について、県の認識と取組はどうか?

A、県立都市公園として初めての、Park-PFIを活用した取組を柏の葉公園で進めている。公園利用者や地域の方々から要望が多くあった、カフェやバーベキュー場のオープンを令和6年夏頃に予定。加えて、新たな都市型スポーツ施設等の導入についても、検討を進めている。柏の葉公園での事例を参考にしながら、また、富津公園や蓮沼海浜公園においても、民間活力の導入し、地域の活性化に繋がる魅力あふれる公園をめざす。

手賀沼の親水性について



手賀沼は、豊かな自然環境に触れ合うことのできる、首都圏近郊の貴重な自然湖沼として、また悠久の歴史と多様な文化をもっており未来への財産です。手賀沼周辺に暮らす人や手賀沼を訪れる人々に、その存在を広く知っていただき、良さを体感していただきたい。そこで人と水との関わり合いを確認したい。(昔、ディズニーランド建設候補地だった)

Q、手賀沼における人と水との関わり合いの強化はどのように進めていくのか?

A、第8期湖沼水質保全計画に基づき、人と水との関わり合いの強化の視点から、県、流域市及びNPO等の連携により、自然観察会や船上見学会等の体験型学習や清掃活動等を進めている。散策や釣り、サイクリングなど多様な親水利用の場であるという現状も踏まえ、流域市の住民等を対象としたアンケート調査を行うとともに、利用者が評価できる新たな指標の設定を進めている。人と水との関わり合いの強化に努める。

Q、地元市の取組に対して県はどのような協力を行っているのか また、新たに要望があった場合、県はどう対応していくのか?



A、「北柏ふるさと公園」に隣接する大堀川に、ウッドデッキを設置することとしており、県は技術的な助言を行っています。また、我孫子市からは、水辺利用者の安全対策についての要望があり、景観にも配慮した対応について、市と協議する。

要望

ぜひ現場を歩いて環境に触れながら、親水利用ができることを探してほしい

親水性 = 安全対策へ

若者・子ども達をまもれ

Q、オーバードーズ(咳止めや解熱剤といった市販薬を大量に購入し、何十錠も一気に飲み込んでしまう)の現状と対策はどうか?

A、薬物依存症の治療を受けた10代患者のうち、主に市販薬を使用した者が65.2%に上るとの調査結果もあること、また、市販薬過剰摂取による救急搬送事例が増加している。今後とも、販売者に対する立入・指導を徹底するとともに、教育庁など関係機関等が一同に会する薬物乱用対策の会議の場を活用し、情報共有や連携の確認を行うなど、引き続き市販薬の濫用防止対策に取り組む。



要望

薬の過剰摂取の危険性を認識させるとともに、若者がかかえる深刻な悩みをキャッチする教育現場や地域家庭がオーバードーズへの防波堤となるべき。

Q、梅毒やエイズウイルス感染症について梅毒やエイズウイルスの感染状況と防止の取組はどうか

A、梅毒は、令和5年11月19日時点で409件と、過去最多の令和4年の336件をすでに上回っております。年齢別では、男性は20代から50代の患者が、女性は20代の患者が多い。保健所における梅毒を含む性感染症の無料匿名検査を、本年10月までに全ての保健所で再開した。診断時に既にエイズを発症している「いきなりエイズ」の患者割合は、昨年、53.8%と全国平均の28.5%に比べて非常に高くなっている。年齢別では20代から40代が約9割で、性別では男性が9割以上。青少年向けの出張講習会や成人式・学園祭におけるキャンペーンを実施する。

Q、県内公立学校においては、エイズ及び性感染症の理解と予防のためにどのような指導をしているのか?

A、学習指導要領に基づき、エイズ及び性感染症についての基本的な理解を深めた上で、効果的な予防方法、予防のための個人の行動選択、検査等の社会的な対策について指導。児童生徒の発達段階に応じた、エイズ及び性感染症の理解と予防に関する指導の充実に努める。

障がい者支援はライフワーク

今回は視覚障がい者支援

Q、人間の知覚の割合は視覚83% 聴覚11% 嗅覚3.5% 触覚1.5% 味覚1%と言われ、視覚障がい者の情報取得環境をみると、五感から得られる情報の8割以上を得ることができない、支援の必要がある、情報アクセシビリティ向上をどう取り組むのか?

A、このたび、音声コード作成ソフトの全庁的な利用を可能とし、音声コードの活用を図る。

Q、視覚障害者を支援する人材の育成は?

A、情報保障のため、図書や広報紙などを点字にする点訳奉仕員、音声化する朗読奉仕員の養成講座を実施し、毎年それぞれ約20人を養成。移動の援護等を行う同行援護従業者は、県が指定した事業者により研修を実施し、毎年約400人を養成。

Q、音声対応が可能なハザードマップの普及に対する認識はどうか?

A、国では、スマートフォン上で検索地点の危険性などを文字で表示するマップを作成、公表しており、音声読み上げソフトを活用することで視覚に障害がある方もリスクの把握が可能となることから、県としても周知を図っている。また、市町村が行う音声でお知らせするハザードマップの整備について財政支援の対象としている。

※ユニボイスというアプリを使うと音声コードを読み取ってくれます。また、音声コードも作成してくれます。



新たな視点で教育見つめる!

Q、県立高校の不要備品について、保管状況はどうか、その処分をどのように進めていくのか?

A、学校の備品については備品台帳により管理している。73校で641件の不要備品が保管されている。不要備品の計画的な処分を周知徹底していく。



要望

開かずの教材室もあり、まだ不要備品があるのでは。リユース文化の高まりも背景に、再利用やコレクションなどで意外な需要があります、一斉回収や展示などの工夫を

Q、あべが提案させていただいた「千葉県県立学校チャレンジ応援基金」の現状と今後の取組はどうか?

A、A令和5年1月から寄附募集を開始し先月までに27校がプラン公表しており寄附額は3077万円。県立千葉高校や安房高校は夏休みに、外部講師による進学講座を開催、好評を博した。

